

## アジア養蜂研究協会

### 第5回アジア養蜂研究協会大会・ 第7回 IBRA 熱帯養蜂会議 大会決議

1. 第5回アジア養蜂研究協会大会・第7回国際ミツバチ研究協会熱帯養蜂会議は、本大会開催に際しタイ国政府農業省、チュラロンコン大学、およびメージョ大学からの多大な支援に対し、深く謝意を表す。また大会運営委員会、組織委員会をはじめ、このチェンマイに集結した多くの人々の努力により、本大会が無事開催され、成功裏に終了できたことを、心から感謝する。

2. 本大会はアジア地域が、特にその熱帯、亜熱帯地域において、ミツバチ相がきわめて多様であることを認識し、これらミツバチ種の保護、保存のために努力を惜しむべきでないと決議する。

3. トウヨウミツバチを用いる養蜂はアジア各国で発達してきた。これらの養蜂がさらに効率よく、より適正な飼養形態を見いだせるように、継続されるべきである。そこで、本大会は、1998年カトマンズで開かれたAAA前回大会で決議された、「トウヨウミツバチの保全と振興計画」が継続され、さらに発展するよう改めて決議する。

4. アフリカミツバチ、あるいはアフリカバチ化ミツバチを、アジアのいかなる地域であれ、導入することは、きわめて危険な企てであり、我々は深刻に懸念している。本大会はどのようなレベルであれ、これらの導入はなされるべきでないと決議する。

5. 来るべき21世紀は「スーパー情報ハイウェイ」の時代となろう。そこで、世界の養蜂関

連資源を流通させ、蓄積するために、最新の情報技術を用いなければならない。これにより、知識、技と技術の有効利用が可能となり、科学的研究を促進し、重要で持続可能な経済活動としての養蜂の発展を促すことができよう。このような進展は同時に、あらゆるミツバチ種が世界の構成要素であり、環境と生物多様性の状態を示す不可欠な生物指標でもあることを明らかにし、理解するための途ともなろう。

6. アジアでは各地で多彩な伝統的、中間的技術による養蜂が行われている。これらの養蜂形態が廃れ、貴重な情報が失われる前に、これを記録、確認すべく努力する必要がある。

7. 本大会は、ポリネーターが地球全体で、また特にアジア地域における農業生態系のなかで、重要な役割をはたしていることを認識し、これを保全、保護、活用する必要があると考える。そこで我々はアジア養蜂研究協会の代表が生物多様性条約会議（CBD）と協力し、アジアのポリネーションに関する適切な計画を開始すべきであると決議する。

8. 今日、世界各地でミツバチ生産物を利用した産業が発展しつつある。我々はより多くの人々がこれらの製品に対して正しく理解を深めること、そのために各国の、また国際的機関がミツバチ生産物の優れた点についての広報活動を積極的に行うことをつよく願う。本大会はさらに、法的規制を定める立場の人々や医学関係者が、ミツバチ生産物の有効性を裏付ける科学的研究論文を正しく認識し、それら製品に対する規制や表示について、明確な事実に基づく客観的危険度分析法を用いることを主張する。

大会事務局長 Richard Jones（国際ミツバチ研究協会事務局長）

チェンマイ市にて 2000年3月25日